

がんになっても いきいきと!



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

⑥

説明がととても大切

急に涼しくなりましたね。毎年こんなもんかな?と思うのですが、残暑がきつい年もあり、ことしみたいにすごく暑くて急に涼しくなったり。天候と病気、どちらも自然現象なので、全く同じことはないですね。僕も風邪をひいてしまっていました。今度寒くなるまでに体力づくりしましょうね。涼しくなったのでまたしっかり運動しましょう。

きょうは、患者さんへの説明の話。バイト先の病院で、診察に付いてくれている若いクラークさんが「先生の説明ってすごく分かりやすいとみんな話してました。診療を始めた

頃からそうだったんですか?」と。「説明も手術も同じですよ」と私。きょうの手術はよくできた。満足したらそこで終わり。上達しません。もっと良くするためにはどうしたら良いかを考えるから良くなるんです。説明も同じ。診療技術の一つなので、満足せずに良くなるための努力が必要なんです。

1998年に米国に留学に行きました。ちょうどその頃、乳がんのメーリングリスト「デイベア」が20人くらいで始まりました。今は、1000人を超えています。当時は乳がんの患者さんが情報を得るツールが全くなかった時代で、個人で乳がんのWEBサイトを開設していたのも一つだけ。私も乳がんの標準治療のサイトを立ち上げた時でした。その頃からティード分らないことに返事してあげたり、自分の掲示板に書き込まれたこと一つひ

とつ答えたりしていました。分かりやすい説明の原型は、その特訓のおかげもあったのでしょうか? も一つ、患者さんが納得することを目指して診療してきただことも大きな理由です。がん診療で最も大切なのは本人、家族の納得です。納得ができていないときちんとした治療ができないばかりでなく、病状が悪くなっ

たときには悲嘆が訪れます。医療チームと患者、家族が全員で何が療養の目標で、治療とどうマッチさせていくかをしっかり考えなくてはなりません。だから、病状、治療方法などを十分に理解してもらえらうまい説明が欠かせません。医師から、看護師からの説明だけでは不十分です。病状、治療法の理解は、患者、家族との共同作業なので、分かりやすいことはメモをしてよく聞くようにしてくださいね。私も患者さん、家族の人の協力があつたから説

明の仕方がうまくなかったのだと思えます。特に若い先生、看護師さんに、診療技術としての説明が上手になってもらう

ことは、手術がうまくなることと同様に重要なことです。少し余裕があれば、若いスタッフには説明の良かったところ、悪かったところを教えてあげてくださいね。患者さんから学

ぶのが最も大切ですから。

NPO法人いきいき和歌山がんサポートは、寄付金で運営されています。ご協力をよろしくお願ひ致します。

【連絡先】NPO法人いきいき和歌山がんサポート(メール) ikiiki@jimotoryoku.jp、紀陽銀行湊支店普通預金585222